



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「榆蔭」80号
Issue Date	1990-07-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66468
Type	journal
File Information	yuin80.pdf





楡 蔭

北海道大学附属図書館報

目 次

○楡蔭 80 号の発刊によせて 元附属図書館長 今村成和… 1	○北海道大学図書館(室)利用一覧について ……15
○資料紹介 『インド中央・地方立法府資料集』について 文学部教授 高畠 稔… 4	○会 議 ……16
特別図書購入費で購入した資料 …… 5	○規 程 等 ……16
○刊行物案内 …… 6	北海道大学附属図書館における図書館資料の 不用の決定及び廃棄に関する処理要領 文献複写規程及び文献複写料金規程の一部 改正について
○電算化ニュース …… 7	○図書館委員会委員及び教養分館委員 ……18
○図書館統計 平成元年度 …… 8	○受贈図書 ……18
○CLARK 検索 Q & A ……14	○人事往来 ……19

楡 蔭 80 号 の 発 刊 に 寄 せ て

元附属図書館長(名誉教授・元北海道大学長) 今 村 成 和

附属図書館館報“楡蔭”1巻1号は、1967年1月30日に発行されている。それから20数年を経てこの度80号を発刊の運びに至ったことはご同慶の至りである。だがそれにもまして喜ばしいことは、図書館業務の電算化の急速な進展に伴い、図書館活動に新時代が到来したことが、ここ数年来の楡蔭の紙面にもはっきりと現れていることである。尤も現役を退いてから久しい私にその空気を何処まで適確に捉えることが出来るかは甚だ疑問であるが、かつて図書館業務の近代化のために、当時の図書館委員や図書館の専門職員諸氏と共に無い知恵を振り絞って苦闘した昔のことが、懐かしく思い出されるのである。

私は1965年10月に附属図書館長を命じられたのだが、図書館はその年の6月に近代的設備を整えた新館(これが現在の図書館である。)の竣工式があったばかりのところで、その全面開館が行われたのは、翌年4月のことであった。

だから総合大学にふさわしい図書館を初めて持つことになった北大が、それをどう活用するかを真剣に考えねばならぬこととなったのは当然のことであったが、折から日本学術会議が

「大学における図書館の近代化について」と題する勧告(1964)を行ったことから知られるように、当時における我が国の図書館機能の立遅れは甚だしくそこからいかにして脱却すべきかを考えることは、各大学にとっての共通の課題ともなっていた。更に、1968/9年に吹き荒れた大学改革の嵐は、図書館の改革をもその重要課題の一つとするものであった。

このような重なる機運を背景に、我々は、図書館の果たすべき役割を理論的体系的に再認識すると共に、その機能の充実のために積極的に取り組むことを始めた。榆蔭の発行もその一つであったが、当時私の作成した次の文書——(1)北海道大学附属図書館報告書(1966)——学長の交替期に、新任の学長に提出した現状報告とその問題点の指摘、(2)附属図書館の整備と改善の動きについて——北海道大学附属図書館白書(1968, 榆蔭 2-1)、(3)大学図書館改革への途(1970, 榆蔭 Ex. ed.)——国立大学図書館協議会“新しい大学図書館像”特別委員会委員長として作成したもの、(4)北海道大学附属図書館報告書(1971, 榆蔭 5-3/4)——新任の学長宛提出。趣旨は前回と同じ、(5)北海道大学改革検討中間報告(図書館に関すること)——北海道大学改革検討委員会第1—2専門委員会(他の委員との分担執筆。1972)、(6)北海道大学改革検討報告(図書館に関すること)——同上専門委員会(1973)などは、何れも私の館長在任中(ただし(5)、(6)は退任後一委員として執筆)に、我々が、何を問題とし、何を目標に努力してきたかを詳しく示すものとなっているのである。

1987年3月20日付けの、飯田正一委員長の下でまとめられた「北海道大学図書館将来計画中間報告」(榆蔭 No. 72)は、その冒頭に上記(3)の文章を引用して、そこには『大学改革の目標は、研究と教育の場としての大学が、その社会的使命を達成するための方途を追求することにあり』、『大学図書館の改革は大学の共有財産である図書が、学問を志す者の総てに開放され、利用されることに役立つ図書館を作り上げてゆくことにあり』と述べられている。そして「図書館近代化の主役は電算機にあることを示唆している。」ことを指摘し、「爾来北海道大学の図書館電算化は着実にその歩を進めている。」としてその成果に基づく図書館の将来計画を示している。20年前には一つの夢に等しかった図書館業務の全面的電算化の時代が遂に到来し、それに基づく将来計画の中で改めてこの文章が想起されることになろうとは、私としては思いも寄らぬことであった。

それと共に榆蔭のこの号には、当時の大野公男附属図書館長がこの中間報告について述べた文章が載せられているが、その中で特に印象が深かったのは、「附属図書館の責任者の立場から見て、特に重要と思われる点(の)第一は附属図書館が人文・社会系研究・学習図書館としての機能を果たすことが期待されているということを図書館委員会としては初めて明示したことである。この構想は遠く昭和41年に今村元図書館長の“報告書”の中に現れて以来、図書館の基本構想の一つとされながら、私の知る限り現在まで図書館委員会の“認知”を受けることなく経過してきたものである。私としては、この中間報告にあるように、文系学部等の御提議に基づき、その研究・教育の特性に応じた最適の条件を整備して、資料の移管と業務の統合を果たしたいものと念願している。」と記されていたことである。

然し実をいうとこれは、新図書館建設の動機でもあったもので(榆蔭 1-5, 横山尊雄「北海道大学附属図書館改築の経緯について」参照)、私の館長就任に際し先ず直面したのもこの問題であった。然し新書庫に、法・経・文3学部の図書約15万冊を移しその管理換えを実現することが出来たのは、漸く新図書館開館直前のことで(榆蔭 1-2, 5頁)これとても法学部図書の全面移管を別とすれば学部図書の一部の移管に過ぎないものであった。しかもそれさえも多くの困難を伴う作業であったことは、当時の附属図書館事務部長であった村田豊雄氏の退官の

弁「図書館の2年間」(楡蔭 1-2)の中にも触れられているが、ここではそれを繰返す必要はない。それよりも、これに伴い関係学部から図書掛定員の一部(多いところでは全部)が移されたお蔭で、その後の定員削減にも拘らず図書館においては、「改革への着手が、改革そのものを救った」という証言があることも(「附属図書館」秋月俊幸執筆分。北大百年史・部局史(1980)1366頁)忘れられないことだろう。

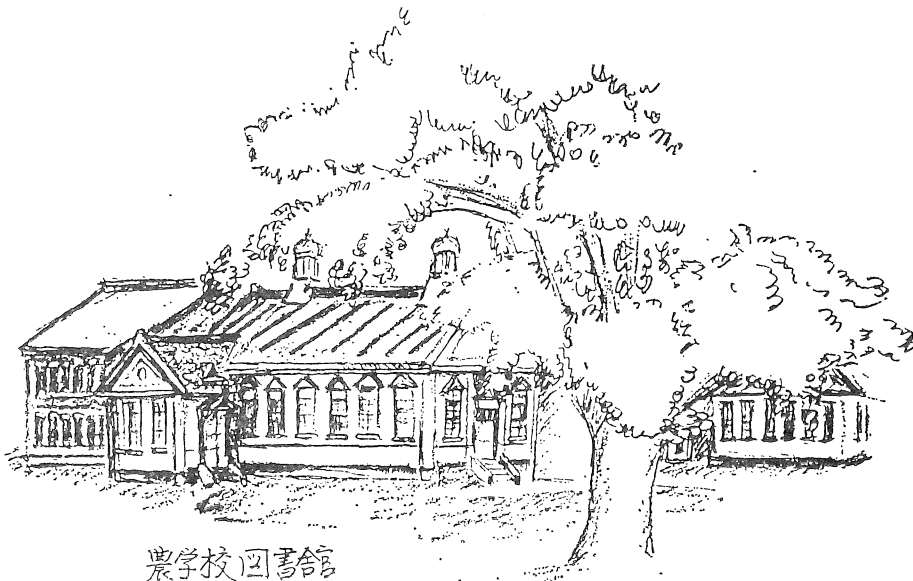
だが図書館がこれに満足していたわけではなく、私も(1)以来繰返しこの問題を取り上げ、又(6)の北海道大学改革検討報告でもその必要を説いているのである。然るに、それが容易に実現しないで来たことの背景には、研究用図書の集中管理か分散管理か、という大学図書館に特有の問題があった。

図書の公共性という観点からは、集中管理が理想的であるには違いないが、そのためには、研究者の研究上の利用に支障を来たさないための図書館側の十分な配慮とこれに対する研究者の理解と協力が必要なのであって、これによってその機が熟さない限りその実現は容易なことではないだろう。

だから電算機の導入を中心とする学術情報管理の飛躍的改善が実現するにいたった今日では、この目標にはこれ迄にはなかった現実性が認められて来たのではなかろうか。将来計画の結論をまとめた“提言”の中に人文・社会系研究学習図書館の構想が初めて“明示”されたというのもこのことと無関係ではないだろう。

大野前館長は又、図書館将来計画中間報告の中で「特に重要と思われる点」の「第二は理系分館の設置という計画が初めて提案されたことである。」と指摘されている。これも(6)の改革検討報告の中では、「主として自然系について考えられる専門分野別図書館については、これを究極の目標」とするにとどまっていたもので、ここにも10数年の歳月の隔たりがある。

その後における図書館の動きは、大野前館長の「思い出のいくつか」(楡蔭 No. 78)などにも記されているが、創刊以来今日に至るまでの“楡蔭”の記事は、20数年来の一貫した図書館改革の流れが、近時とみにその勢いを増している事実をよく示しているように思われる。願わくは、図書館と共にその勢いを今後も永く続けられんことを期待してやまない次第である。



農学校図書館

◆ 資料紹介

○大型コレクション

『インド中央・地方立法府資料集』について

文学部教授 高 畠 稔

このたび附属図書館に収蔵された『インド中央・地方立法府資料集』(マイクロフィッシュ)は、1854年から1947年までのイギリス領インドの中央及び地方13州の議会の議事録である。この間に州の統廃合・新設、制度改革による議会の公式名称の変更、二院制の採用等による変動があったが、議事録はそれらの異動に対応するかたちで整理されている。また州議会議事録の始期は1862年、終期は州によっては1939年、遅くて44年までである。これらの議事録の原本はロンドンにある「インド省文書館 (India Office Records and Library)」に保管され、研究資料として公開もされているが、出版刊行されたものではない。議事録を閲覧したい研究者はテムズ河畔の文書館を訪れて、議会別、年次別に綴じてある大型の分厚い記録を、鉛筆片手に一文書館ではインクはボールペンといえどもご法度である一繕読するほかはなかった。それが日本国内で利用できるようになったことは、ただただありがたいというほかはない。

これらの議事録の史料価値を知るために、イギリスのインド支配組織の発展史を要約しておこう。支配組織構成の基本法は1772年以来イギリスの国会制定法—1935年までに制定されたそれらの基本法を「インド統治法」と総称してよい—として与えられることとなったが、それに基づいて任命される総督及び各州知事のもとにはそれぞれ一定数の人員をもつ参事会がおかれ、それらの参事会が改組されて1833年から行政・立法の2参事会制が採用された。この立法参事会議員は、はじめはイギリス人の官僚のみであったが、のちにイギリス人の民間人、やがてインド人が官選議員として加えられ、さらに議員民選制が導入され、1919年法では制限選挙ながら議員の直接選挙制度が採用されるに至った。しかもこの法律によって、州には限定されたものではあったがインド人による行政府が発足することとなり、1935年法ではインド人によるおおはばな州自治が実現された。

植民地国家は宗主国の主権に従属し、内部においては行政府が立法府に優先する。議会政治の体裁だけは整えられても、議会の権能と議員の議会における権利とは制約されていた。たとえば、議員は予算案について質問はできても、議会の票決は行われぬとか、行政府には議会の票決を覆す権力があるとか、植民地自治の内容は民主主義とはおよそ無縁であった。しかしそれでも議員たちはそれぞれの信念なり情報なりに基づいて、当面の政治課題について行政府または同僚議員たちとさまざまな討論や意見交換を行っていた。それらの論議をとおして、特定の時期の特定の問題についての多様な状況認識のありかたが、具体的に理解される。とくに立法過程については、最初の法案が読会ごとの討論による修正を経て最終的に制定されるまでの経緯を、克明に知ることができる。植民地インドの広義の政治史を研究するうえで、議事録がきわめて有力な史料となることは、この程度の簡略な説明でもご理解いただけるであろう。

もちろん、議事録が唯一の史料というわけではない。問題によっては、行政府の側が任命した各種の調査委員団—なかにはイギリスから派遣された勅任委員団も含まれる—の報告書が不可欠である。インド人の政治団体の記録文書、政治家・行政官その他の自叙伝・書簡・日記・備忘録、新聞・雑誌など、研究課題によって必要とされる史料は多種多様である。しかし

ながら、議事録を踏まえることでそれ以外の重要史料への目配りもできるようになるはずである。議会はあらゆる政治課題がともかくも論議される場であったからである。なお、藩王国は自明のことながら諸議会の所管事項ではないので、議事録には含まれていない。

ところで、この膨大な『立法府資料集』を前にして筆者がもっとも懸念しているのは、こんどどれほどの若い研究者が南アジアの近・現代史に原典史料から取り組もうとするのか、という問題である。この領域の研究には南アジアの代表的な言語の習得が不可欠ではあるが、それらの言語による文献を基本史料とする分野は、相対的にはまだ狭いといつてよい。英語文献が覆うことのできる分野の研究を進めながら、語学にも力を入れて行くのが、当面はもっとも効率的であろう。言語の習得から現地調査に進むのも、研究領域によっては必要なことであるが、歴史研究のばあいにはまず文献史料によって基礎を構築し、それから現地入りをして充分にまにあうであろう。ともあれ『インド中央・地方立法府資料集』が全国の若い歴史研究者に活用されることを期待している。

○平成元年度特別図書購入費で購入した資料

Moslem World. Vols. 1-37 (1911-1947) Muslim World. Vols. 38-77 (1948-1987)

(ムスリムの世界)

イスラム教と西アジア・北アフリカの文明・社会・歴史に関する学術研究誌。

Записки Историко-Филологического Факультета С.-Петербургского Университета. 1-133 (1876-1916)

(ペテルブルグ大学歴史・文学紀要) マイクロフィッシュ

19世紀後半から革命にかけての時期、ロシアのアカデミズム文学研究は、革命以降フォルマリズムへと至るロシア文芸学の成立に通じる豊かな業績を挙げた。ペテルブルグ大学で教鞭を執った A. H. ヴェセロフスキーなどはその代表的な例である。本資料はこうしたロシアアカデミズム文学研究を知るための一次資料である。

Journal Officiel de la République Française.

・ **Lois et Décret.**

1970-1979. 1981-1982.

・ **Débats Parlementaires.**

1947-1961. 1969(1). 1978-1979 (1-40).

(フランス官報 法令・政令の部、議会議事録元老院の部) マイクロフィルム

わが国の官報にあたる政府刊行物である。フランスにはわが国の法令全書にあたるものがないので、他の法令集に収録されていないものでも法令・政令等は当タイトルの資料に拠れば必ずあたる事が出来るものとなっている。また、立法過程資料として制定にいたる経過を知る資料である。

群是市町村是調査資料

全 13 リール

マイクロフィルム

明治末期の地域産業、生活、教育に関する調査資料。

児童文化叢書 第 1~2 期

児童文学、児童文化に関する戦前の刊行図書・資料。第 3 期は言語文化部で所蔵。

朝鮮総督府官報

1910 年 8 月~1945 年 8 月 (索引 5 冊付)

1910 年から 1945 年まで 36 年間に及んだ日本の朝鮮総督府の官報であって、もちろん日本文であり、日本統治下朝鮮の政治、経済、行政、法律、社会、産業、教育の全般にわたる、最も基本的な重要資料である。

◆ 刊行物案内

「日本北辺関係旧記目録（北海道・樺太・千島・ロシア）」

附属図書館北方資料室では、同室に所蔵している江戸時代から明治初年の北辺地域に関する写本、木版本を整理し、このたび表記のような冊子目録を刊行した（B5版、縦2段組467ページ）。この目録の編集に際しては、内容の充実をはかるために他の機関や個人所蔵者の協力を得て北大本の欠を補うことに努めたので、この中には写真複写や電子複写による複製本も多数含まれている。すでに刊行されている翻刻本や影印本などでもできるだけ収録した。全体は叢書、地誌紀行、歴史、アイヌ民族、千島列島、カラフト島、外国関係などに大別され、細分類の中はおおむね旧記の成立年代順に排列されている。各資料については書名、著編者、成立年、写本版本の別、丁数、サイズ等のほかに、簡単な内容説明を記し、巻末には書名と著編者の索引が付されている。

ここに収録した旧記類は北辺資料のごく一部にすぎないとはいえ、当該の時期の蝦夷地に関する主要な文書や記録の多くを含み、北辺の地理調査やアイヌ・オロッコ・ギリヤークなど北方民族についての記述、ロシアに関する情報なども少なくない。近年は北太平洋地域の歴史・民族学・言語学などへの関心が国際的に高まりつつあるが、この目録が今後のわが国における北辺研究のために大いに活用されることを期待したい。なお、この目録は全国の大学や公共図書館、博物館のほか北海道内の市町村などに配布したが、個々の研究者のためには北海道大学図書刊行会による再刊が予定されている。

「ベルンシュタイン・コレクション目録」,

「ワイマール期ドイツ保守革命～アルミン・モーラー文庫目録」,

「ゲルシンスキ文庫目録」

このたび、昭和59年度全国共同利用図書購入費および昭和63年度外国学術図書購入費によって入手したコレクションについて、表記のとおりそれぞれ冊子目録を刊行した。

レオン・ベルンシュタイン (Leon Bernstein 1877-1962) は、「ブンド」の創立メンバーのひとりで、後パリに亡命してジャーナリストとして活躍した。10月革命後はボリシェヴィキ政権に反対して政治活動から手を引き、執筆活動のかたわらアムステルダム国際社会史研究所パリ通信員となり資料収集に貢献した。本コレクションは、彼の深い見識のもとに収集したロシア革命運動史を中心とするロシア史、ロシア文学・ロシア文化に関する貴重な資料約5,000点を収録している。内容に関しては本誌65号および北大時報388号にスラブ研究センター教授長谷川毅先生によって詳しく紹介されているので参照願いたい。

アルミン・モーラー (Arnin Mohler) は1920年生れのスイス人ジャーナリストで、大学の教壇に立ったこともあり、ジャーナリストとしての感覚と学者としての資質をあわせもった著述家である。本文庫には、モーラーが生涯の大半を費やして収集したワイマール共和国時代の思想運動「保守革命」に関する資料約5,300冊が収録されている。

ヘンリク・ゲルシンスキ (Henryk Gierszynski 1845-1930) はポーランドの医家であったが、若くして政治活動に入り、1863～64年の対ロシア民衆蜂起、いわゆる1月蜂起に参加、以後亡命活動者の生涯を送った人である。本文庫には、ユゼフ・ピウスツキに指導されたポーランド社会党関係の資料を中心にポーランド独立運動、社会主義運動に関する図書、パンフレッ

トなど 2,500 点余が収録されている。

モーター、ゲルシンスキ両文庫については、本誌 75 号に法学部教授今井弘道、スラブ研究センター教授伊東孝之両先生によって紹介されているのでそちらを参照願いたい。

これらの目録刊行を機に、それぞれの資料がひろく学内外の研究者に活用されることを期待したい。

◆ 電算化ニュース

○システム部会報告

〔システム管理部会〕

平成 2 年度第 1 回（平成 2 年 4 月 25 日）

- ・ CLARK システム改善（標準パッケージ化）について

NEC から提案された大規模大学図書館システムを標準パッケージ化の方針に関して検討した。システムの維持管理等将来的にもメリットが大きいのと思われるので、CLARK 改善要求という形で標準システムへの提案を行うこととした。標準化への検討作業は管理部会及び実務担当者で目録班、雑誌班、サービス班、受入班の四班に分け行うこととした。

平成 2 年度第 2 回（平成 2 年 5 月 18 日）

- ・ CLARK システムの改善（標準パッケージ化）について

目録班、雑誌班、サービス班、受入班の各作業班の検討結果を全体としてまとめたものが標準システムへの提案の原案として提出され、1 部修正を加え了承された。

平成 2 年度第 3 回（平成 2 年 6 月 11 日）

- ・ CLARK システムの改善（標準パッケージ化）について

標準システムへの提案について NEC からの回答を検討し、図書業務電算化委員会へ報告する北大側対応原案をまとめた。

〔雑誌情報システム運用部会〕

平成 2 年度第 1 回（平成 2 年 5 月 11 日）

- ・ CLARK システム（雑誌）改善案について

標準化への検討作業で、雑誌班で取りまとめたものを討議した結果、更に 5 項目を追加することとした。

〔サービスシステム運用部会〕

平成 2 年度第 1 回（平成 2 年 5 月 10 日）

- ・ CLARK システム改善案等の作成について

標準化への検討作業で、サービス班で取りまとめたものを討議し、新たな要求を加えサービス部会としての改善案をまとめた。

- ・ 研究室貸出図書リストについて

例年どおり 5 月中に打出すこととし、今回の担当部局を決めた。

◆ 図書館統計 平成元年度

部 局 別 蔵 書 冊 数

(平成2年3月31日現在)

部 局 \ 区 分	和 書	洋 書	合 計	備 考
附 属 図 書 館	474,778	362,820	837,598	法学部を含む
教 養 分 館	115,633	66,713	182,346	言語文化部を含む
文 学 部	93,013	117,184	210,197	
教 育 学 部	69,910	27,302	97,212	
法 学 部	(65,753)	(118,976)	(184,729)	附属図書館所蔵
経 済 学 部	60,148	47,898	108,046	
理 学 部	45,781	138,814	184,595	情報処理教育センター, 実験生物センター含む
医 学 部	79,724	104,803	184,527	附属病院, アイソトープ総合センター含む
歯 学 部	14,673	14,473	29,146	附属病院含む
薬 学 部	5,231	14,150	19,381	機器分析センター含む
工 学 部	172,521	140,750	313,271	
農 学 部	194,213	107,966	302,179	附属農場, 附属演習林含む
獣 医 学 部	10,446	20,826	31,272	
水 産 学 部	73,391	45,591	118,982	
教 養 部	15,855	8,140	23,995	
言 語 文 化 部	(17,807)	(53,591)	(71,398)	教養分館所蔵
環 境 科 学 研 究 科	10,421	5,119	15,540	
低 温 科 学 研 究 所	6,916	16,009	22,925	
応 用 電 気 研 究 所	5,568	16,475	22,043	
免 疫 化 学 研 究 所	1,435	6,514	7,949	
触 媒 化 学 研 究 センター	3,149	10,655	13,804	
スラブ研究センター	(2,509)	(39,477)	(41,986)	() 内は管理換したものを含む数
	1,570	12,937	14,507	
大型計算機センター	902	1,579	2,481	
事 務 局	1,824	156	1,980	保健管理センター含む
医療技術短期大学部	18,921	2,920	21,841	
計	1,476,023	1,289,794	2,765,817	

○ 平成元年度年間受入： 図書冊数・雑誌種類数

区 部 分 局	図 書 受 入 冊 数							雑 誌 受 入 種 類 数						
	和 書			洋 書			合計	和 雑 誌			洋 雑 誌			合計
	購入	寄贈	その他	購入	寄贈	その他		購入	寄贈	その他	購入	寄贈	その他	
附 属 図 書 館	5,330	1,001	6,766	7,071	236	5,887	26,291	274	1,851	—	415	485	—	3,025
教 養 分 館	2,822	38	224	3,089	22	471	6,666	167	232	1	274	6	—	680
文 学 部	4,119	197	277	3,781	335	898	9,607	130	590	2	682	6	—	1,410
教 育 学 部	1,872	11	550	454	—	72	2,959	252	401	—	192	7	—	852
法 学 部	(1,431)	(52)	(409)	(5,855)	(109)	(450)	(8,306)	(154)	(325)	—	(330)	(39)	—	(848)
経 済 学 部	1,512	171	345	1,317	31	552	3,928	145	615	1	283	46	1	1,091
理 学 部	369	24	237	1,054	210	1,850	3,744	133	287	1	753	354	4	1,532
医 学 部	645	91	781	514	50	1,482	3,563	273	578	—	690	173	2	1,716
歯 学 部	284	41	183	211	2	560	1,281	138	126	—	213	34	—	511
薬 学 部	133	18	32	93	30	459	765	36	49	—	109	5	—	199
工 学 部	1,634	102	705	875	17	2,039	5,372	345	435	2	851	96	1	1,730
農 学 部	1,976	72	653	855	10	781	4,347	431	848	11	585	330	2	2,207
獣 医 学 部	169	35	120	199	13	393	929	51	165	—	137	132	—	485
水 産 学 部	887	2	519	152	42	907	2,509	203	638	3	264	438	2	1,548
言 語 文 化 部	(885)	(1)	(60)	(2,692)	(0)	(170)	(3,808)	(11)	(16)	—	(150)	(2)	—	(179)
環境科学研究科	305	—	126	254	—	232	917	42	81	1	128	35	1	288
低温科学研究所	23	2	60	63	—	455	603	26	366	6	96	222	—	716
応用電気研究所	176	—	3	164	—	183	526	27	120	—	120	10	—	277
免疫化学研究所	11	—	—	30	—	188	229	13	102	1	48	—	—	164
触媒化学研究 センター	1	—	58	73	—	251	383	16	1	—	53	15	—	85
ス ラ ブ 研 究 セ ン タ ー	269	2	46	2,347	83	314	3,061	6	143	1	171	58	1	380
大 型 計 算 機 セ ン タ ー	19	—	—	104	—	—	123	36	33	2	55	—	—	126
医 療 技 術 短 期 大 学 部	832	44	201	121	—	63	1,261	152	129	1	59	1	—	342
合 計	23,388	1,851	11,886	22,821	1,081	18,037	79,064	2,896	7,790	33	6,178	2,453	14	19,364

- ・〔部局：集計単位としての部局〕附属図書館には法学部，教養分館には言語文化部，理学部には情報処理教育センターと実験動物センター，医学部には附属病院とアイソトープ総合センター，歯学部には附属病院，農学部には附属農場と附属演習林，薬学部には機器分析センター，事務局には保健管理センターの分をそれぞれ含む。以下の統計においても同じ。
- ・〔その他〕は，雑誌を製本として受入たもの，および管理換で増となったもの＝図書館の例では自然系バックナンバーのものとスラブ研からの管理換え＝がほとんどである。

○ 平成元年度 附属図書館利用数

(開館 286 日)

区 分 部 局		開 架 図 書 室		書 庫			参 考	北 方	語 学
		館 外 貸 出		館内閲覧	館 外 貸 出		閲覧室	資料室	演習室
		人 数	冊 数	冊 数	人 数	冊 数	利用者数	利用者数	利用者数
学 生 所 属 部 局	文 学 部	2561	4931	4661	467	772	1216	472	269
	教育学部	380	800		32	48	174	93	
	法 学 部	3196	6051		587	781	424	72	
	経済学部	1174	2353		108	152	460	43	
	理 学 部	2716	5344		40	58	164	36	
	医 学 部	288	481		3	3	23	14	
	歯 学 部	325	659		3	4	42	3	
	薬 学 部	382	712		0	0	21	11	
	工 学 部	1241	2337		17	20	134	115	
	農 学 部	1009	1888		25	30	88	61	
	獣医学部	123	310		0	0	22	4	
	水産学部	15	30		0	0	25	5	
	教 養 部	5500	10558		269	376	378	499	
	研究所ほか	77	115		0	0	126	63	
	医療短期大	329	613		5	8	28	9	

区 分 部 局		開 架 図 書 室		書 庫			参 考	北 方	語 学
		館 外 貸 出		館内閲覧	館 外 貸 出		閲覧室	資料室	演習室
		人 数	冊 数	冊 数	人 数	冊 数	利用者数	利用者数	利用者数
院 生 教 官 職 員 学 外 利 用 者	院 生	3066	7591	1578	1810	4146	—	—	214
	教 官	1162	2420		1685	6125	—	—	
	職 員	808	2534		143	456	—	41	
	学 外 利 用 者	221	554	2052	293	805	389	912	0
利 用 者 合 計		24573		4175	5487		3714	2453	483
利 用 冊 数 合 計			50281	8291		13784	1) 744	2) 1496	486

註 1) 国連資料・OECD資料・EC資料・図書館学資料及び参考図書(一夜貸出)

2) 館外貸出冊数のみ。

3) 参考閲覧室、北方資料室の学内利用者は学生欄にまとめた。

○平成元年度 教養分館利用数

(開館 290 日)

区 分 部 局	開架図書室 (館外貸出)		語学演習室 (館内利用)		ビデオ視聴室 (館内利用)	
	冊 数	人 数	巻 数	人 数	巻 数	人 数
文 学 部	1450	792	33	28	8	8
教 育 学 部	99	62	0	0	11	9
法 学 部	437	262	50	34	38	31
経 済 学 部	586	346	31	28	60	43
理 学 部	2579	1451	5	5	18	12
医 学 部	368	240	2	2	7	6
歯 学 部	181	99	2	1	1	1
薬 学 部	439	248	4	4	23	20
工 学 部	2039	1193	37	36	63	48
農 学 部	464	265	2	2	14	14
獣 医 学 部	218	123	0	0	3	2
水 産 学 部	5	3	5	3	1	1
教 養 部	38766	22727	649	585	1589	1320
医 療 短 期 大	118	70	0	0	9	5
院 生	1044	601	34	30	79	59
教 官	681	378	3	2	59	23
職 員	1112	560	2	2	13	12
学 外 利 用 者	63	34	5	5	32	32
利 用 者 合 計	50649	29454	864	767	2028	1646

館外貸出・分類別

(教養分館)

000 総 記	2217
100 哲 学	2454
200 宗 教	254
300 社 会 科 学	4718
400 語 学	702
500 純 粋 科 学	19598
600 応 用 科 学	2473
700 芸 術	1211
800 文 学	4491
900 地 理・歴 史	5051
文 庫・新 書	7327
雑 誌	153
合 計	50649



○ 平成元年度 文献複写・相互利用統計

I. 国内： 附属図書館相互利用掛を経由して学外へ依頼した件数（国立・私立とも）

申込部局	附 属 図書館	文学部	法学部	教 育 部	理学部	歯学部	薬学部	工学部	農学部	獣 医 部
件 数	3	34	362	23	7	4	2	5	30	7
申込部局	言 語 文化部	環 境 科学	低温研	応電研	触媒研	免疫研	医 療 短 大	実 験 生物セ	その他	合 計
件 数	44	139	6	76	14	10	99	9	5	879

II. 国内： 国立大学等図書館間相互における文献複写で各部局図書掛が受付・依頼を行った件数

部 局	附 属 図書館	文	教	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	低温	合計
受 付	2,470	298	166	193	—	1,102	—	185	1,163	1,569	347	359	104	7,596
依 頼	603	293	124	140	449	964	121	355	689	418	258	232	53	4,699

III. 国外への依頼件数（参考調査掛）

英	米	西 独	ソ 連	オランダ	ベルギー	フランス	オースト ラリア	その他	合 計
209	157	54	37	11	11	9	6	21	515

IV. 図書館間相互貸借（相互利用掛） ○ 他館への貸出 849 冊 ○ 他館からの借用 294 冊

V. 附属図書館電子複写・マイクロ業務実績（館内分を除く）（相互利用掛）

複写室 申込者	件 数 (件)	複写論文 数 (点)	処 理 枚 数 ・ コ マ 数					
			総 数	内				
				電子複写 (枚)	マイクロ フィルム (コマ)	マイク ロ フ イ ッ シ ュ (枚)	引伸焼付 (枚)	リーダ ー プリンター (枚)
学 内 者	238	529	15,570	961	5,823	—	180	8,786
学 外 者	3,551	4,910	60,993	59,683	1	—	—	1,309
合 計	3,789	5,439	76,563	60,644	5,824	—	180	10,095

VI. 参考質問（参考調査掛）

所 在 調 査	書 誌 調 査	事 項 調 査	利 用 指 導	情 報 検 索	合 計
2,816	379	634	1,311	179	5,319

○ 平成元年度 CLARK 統計

端 末 機 設 置		図書データベース登録数					雑誌データベース登録数			システムを 使用しての貸出		検索回数 1 台平均 ③	
部 局 名 ①	台数	年間増加	累 計			学術情報 センター への所蔵 登録累積 (90.4.1)	所蔵雑誌 純誌数	受入雑誌 延べ誌数	製本単位	研究室	一般貸出	利用者用	業務用
			合 計	和 書	洋 書								
附 属 図 書 館	21	14,240	151,983	94,803	57,180	109,553	16,603	2,397	199,883	38,398	50,281	31,446	12,549
週 及 入 力	15	156,986	② —	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6,223
法 学 部	1	☆	☆	☆	☆	☆	☆	880	☆	10,771		13,506	
ス ラ プ 研 セ	1	1,146	1,292	73	1,219	☆	☆	250	☆	0		3,956	
教 養 分 館	7	6,716	105,270	73,395	31,875	57,763	1,020	974	8,550	7,425	50,649	32,190	6,508
教 養 部	1	△	△	△	△	△	△	△	△	5,931		4,523	
言 語 文 化	1	△	△	△	△	△	△	△	△	30,749		1,432	
文 学 部	6	7,977	75,868	33,333	42,535	51,620	2,219	1,414	5,082	80,961		13,041	4,759
教 育 学 部	3	2,443	36,825	29,943	6,882	24,484	1,826	891	2,911	13,364		6,286	9,546
経 済 学 部	4	2,845	36,917	20,103	16,814	28,104	2,982	1,096	10,517	47,434		18,257	16,109
理 学 部	5	1,646	22,029	9,373	12,656	14,497	3,665	1,818	6,415	24,691		15,134	10,636
医 学 部	5	2,174	22,752	12,763	9,989	15,314	4,323	2,044	7,820	13,352		9,805	5,831
歯 学 部	2	572	10,122	7,004	3,118	6,020	531	567	1,637	11,763		6,924	3,066
薬 学 部	2	348	911	678	233	675	351	259	2,704	547		7,451	3,493
工 学 部	7	3,260	58,255	41,759	16,496	27,482	3,700	2,292	7,185	48,158		15,529	4,347
農 学 部	7	2,090	43,479	33,455	10,024	23,534	4,876	2,247	5,793	41,649		22,655	10,290
獣 医 学 部	2	347	1,245	619	626	926	864	513	1,222	1,335		3,233	2,503
水 産 学 部	4	926	3,973	3,331	642	2,705	3,323	1,710	5,569	7,976		9,971	9,686
環 境 科 学	1	427	2,281	1,723	558	1,749	382	304	3,303	5,259		6,598	
低 温 研 究	1	46	754	467	287	573	1,114	721	2,239	42		1,749	
応 電 研 究	1	332	672	363	309	555	313	172	1,649	626		4,409	
触 媒 セ	1	130	546	102	444	464	186	85	907	36		2,410	
免 疫 研 究	1	22	170	42	128	67	111	66	858	180		584	
医 療 短 大	1	1,287	14,065	12,175	1,890	9,854	325	284	2,264	3,645		3,058	
北 教 大	12	16,305	29,836	26,277	3,559	—	7,985	—	—	29,839		8,789	
合 計	112 台	222,265 冊	619,245 冊	401,781 冊	217,464 冊	375,939 件	37,658誌	20,984誌	276,508 冊	424,131 冊	100,930 冊	18,429 6,749 総合計1,232,380回	8,336
							延べ誌数 69,793誌	純誌数 13,822誌					

注記 ①部局名一附属図書館には大計センターの数を含む。☆欄は附属図書館に、△欄は教養分館に含まれる。スラブ研セで処理した資料は附属図書館に移管される。

②週及入力の累計 414,817 冊は各部局の累計に含まれる。③蔵書検索画面で検索語を入力し実行キーを押した回数。

CLARK 検索 Q & A

Q: 検索にあたってはまず何を念頭におくとよいのでしょうか。

A: まず書名から検索するようにして下さい。これは、**CLARK** は蔵書の検索、つまり、北大での特定の資料の所在を探すということを目的として設計されていることによります。「特定の」というとき、最も安定して機能しうるものとして書名があり、著者名とか書名中の言葉はその機能を補完するものと考えられています。

Q: 書名を検索するときに注意することはどんなことでしょうか。

A: **15 文字の範囲内** (20 文字までタイプ出来ますが、有効なのは 15 文字です) で、日本語はカタカナ形を字間を空けないで、外国語はローマ字形を単語ごとにスペース一つを入れて入力するようにして下さい。その際、副書名など書名の一部とはされていない言葉は省いて下さい。

日本語の場合、助詞の「ハ」は「ワ」, 「ヘ」は「エ」, 「ヲ」は「オ」, あるいは、「便覧」は「ベンラン」, 「研究所」は「ケンキュウジョ」のように統一された表記となっていることに注意して下さい。

そして、外国語では最初の冠詞は省いて検索することになります。

(例) The world of the cell …… WORLD OF THE CELL

A Laodicean: a story of to-day … LAODICEAN

(書名)

(副書名)

Q: 著者名ではどんなことがありますか。

A: 著者名は「姓名」の順で入力し、姓と名との間にはスペース一つを入れて下さい。

著者が多数の場合は最初の著者名を入力するようにした方がよいでしょう。

それから、翻訳図書の著者名は、まず、原語の綴りでの検索を優先して下さい。

また、「KUHN THOMAS S」をヒットさせるために、その完全な形を知らないときには、「KUHN T㍻」のように ㍻ 記号を使った前方一数の機能は慣れると便利なものです。

Q: 書名中にある言葉を入力してもヒットしないこともあります。

A: CLARK は書名中の言葉でも検索できますが、これは主題を表す語に限ります。

ですから、冠詞や接続詞はもちろん、「概論」「入門」のように主題を表さない語は通常は検索語とはなっていません。

もう一つ、言葉の入力の仕方では、日本語の接頭語や接尾語は分割しないで入力して下さい。

(例) 書名: 哲学的・政治的プロフィール……「テツガク」「セイジ」ではヒットしません。「テツガクテキ」「セイジテキ」と入力して下さい。

◆ 北海道大学図書館（室）利用一覧について

オンライン検索を行うと、「所在」情報に研究室（教官室名等）が表示されますが、ほとんどの場合、利用者が直接研究室等から借りることはできません。また、他部局所属利用者が利用するときには一定の制限等があることもあります。下表を参考にしてください。

北海道大学図書館（室）利用一覧

図書室名	内線	貸 出		教官研究室所在図書				開 館 時 間		図書室の 昼休時間の利用
				利 用 窓 口		図書室への 事前の問い 合わせ				
		学 生	教 官	図書掛	学科図書 研究室			月一金	土	
附属図書館	3956	学生証	図書館利用証					①9:00-20:00	①9:00-16:30	可
教養分館	5575	〃	〃					① 〃	① 〃	〃
文 学 部	3061	〃	身分証明書又は図			○	不 要	9:00-17:00	9:00-12:30	不 可
教育学部	3085	〃	〃	○			要	〃	〃	〃
経済学部	3168	〃	〃	○			〃	〃	〃	〃
理 学 部	2667	〃	〃			○	不 要	〃	〃	可
医 学 部	5016	〃	〃			○	〃	②9:00-19:00	②9:00-14:30	〃
歯 学 部	4210	〃	〃	○			要	9:00-17:00	9:00-12:30	〃
薬 学 部	3249	〃	身分証明書	○			〃	〃	〃	不 可
工 学 部	6136	〃	身分証明書又は図		○		〃	〃	〃	可
農 学 部	4122	〃	身分証明書	○			〃	〃	〃	〃
獣医学部	5180	〃	〃	○			〃	〃	〃	不 可
水産学部	221	貸出不可(複写可)		○			〃	〃	〃	可
環境科学研	2208	学生証	身分証明書	○			〃	〃	〃	不 可
低温科学研	5449	〃	〃	○			〃	〃	〃	〃
応用電気研	3363	〃	〃	○			〃	〃	〃	〃
免疫科学研	5516	貸出不可 (複写は校費のみ)		○			〃	9:00-16:30	9:00-12:00	〃
触媒化学セ	2905	学生証	身分証明書	○			不 要	9:00-17:00	〃	可
ス ラ ブ 研	3310	貸出不可		研究室には図書を置いていない				〃	〃	不 可
医 療 短 大	3319	学生証	身分証明書又は図	○			要	③9:00-17:00	9:00-12:30	〃

※図： 図書館利用証

※閲覧は全部局可能であるが、学生証又は身分証明書が必要

※①夏季・冬季・春季は月一金：9:00-17:00、土：9:00-12:30 ②冬季は月一金：9:00-18:00、土：9:00-13:30 ③月・木：9:00-18:00

※昼休時間とは12:00-13:00である。ただし、医療短大は12:10-13:10

◆ 会 議

第 143 回 図書館委員会 <平成 2 年 3 月 13 日 (火)>

(議 題)

1. 平成 3 年度概算要求事項について
2. 附属図書館資料の不用決定及び廃棄処理要領について
3. 経済学部図書掛と附属図書館との部分統合について

(報 告 事 項)

1. 大型コレクションの予算配当について
2. 自然系外国雑誌購入費の返戻について
3. 遡及入力について
4. 無手順方式による蔵書検索について
5. 学内に設置してある端末機の稼働状況について
6. 経済学部図書統合に伴う書庫内の移動計画について

第 102 回 教養分館委員会 <平成 2 年 4 月 24 日 (火)>

(議 題)

1. 平成元年度教養分館図書決算について
2. 平成 2 年度教養分館図書予算 (案) について

図書担当掛長会議 <平成 2 年 2 月 28 日 (水)>

(議 題)

1. 図書館資料の不用決定基準について

図書担当掛長会議 <平成 2 年 6 月 12 日 (火)>

(議 題)

1. CLARK システム改善 (標準パッケージ化) について

北海道地区国立大学附属図書館事務 (部・課) 長会議 <平成 2 年 2 月 22 日 (木)>

(議 題)

1. 北海道地区国立大学附属図書館協議会の議題について
2. ファクシミリの利用について
3. 目録システム講習会 (地域講習会) について——各大学における成果及び要望・提案等——

第 22 回 北海道地区国立大学図書館協議会 <平成 2 年 4 月 19 日 (木)>

(協 議 事 項)

1. 平成 2 年度図書館職員の研修計画について
2. 「第 37 回国立大学図書館協議会総会関係」について
3. 図書館建築基準に関する特別委員会中間報告 (案) について
4. 次期当番校について

◆ 規 程 等

○ 北海道大学附属図書館における図書館資料の不用の決定及び廃棄に関する処理要領

北海道大学附属図書館所蔵の図書館資料について、文部省所管物品管理事務取扱規程 (昭和 32 年文部省訓令) 第 28 条及び第 29 条に基づき不用の決定及び廃棄をしようとするときは、この要領によるものとする。

第1 この要領で図書館資料（以下「資料」という。）とは、備品として登録された次の各号の一に該当するものをいう。

- (1) 図 書
- (2) 雑 誌
- (3) 視聴覚資料
- (4) 記 録 類

第2 次の各号の一に該当する資料で、管理換又は分類換により適切な処理をすることができないときは、不用の決定をすることができる。

- (1) 保存を要すると認められる正本を除いた複本
- (2) 期間の利用を目的として取得された資料で、相当期間を経過したと認められるもの。
- (3) 改定版等により、資料内容が利用価値を失ったと認められるもの。
- 2 資料が甚だしく汚損若しくは破損し、補修が不可能なとき又は補修に要する費用が、当該資料の取得等に要する費用より高価であると認めるときは、不用の決定をすることができる。
- 3 その他資料を供用することができないと認めるときは、不用の決定をすることができる。

第3 不用の決定を行う際は、図書館委員会の承認を得なければならない。

第4 不用の決定をした資料のうち、次の各号の一に該当する場合は、廃棄するものとする。

- (1) 売り払うことができないとき。
- (2) 売り払い価格が、売り払いのために要する費用に満たないと認めるとき。
- (3) 売り払うことにより、国に損失を招くおそれがあると認めるとき。
- (4) 売り払うことが不利又は不相当と認めるとき。

第5 事務手続きは、北海道大学所蔵物品管理事務取扱規程（昭和43年海大達第22号）の定めるところにより行うものとする。

第6 この要領の施行に関し、必要な細目は附属図書館長が別に定める。

附 則 この要領は平成2年3月13日から施行する。

○ 文献複写規程及び文献複写料金規程の一部改正について

国立大学附属図書館の文献複写料金についての取り扱いが本年4月1日以降改められたこと並びに従来行っていたマイクロフィルム方式及びマイクロフィッシュ方式による複写を取りやめることに伴い、附属図書館文献複写規程及び附属図書館文献複写料金規程の一部が改正されました。なお、改正後（本年4月1日以降）の複写料金は以下のとおりです。

種 別	区 分	単 価	
		学 内	学 外
リーダプリンターによる複写料金	B4版 以下 1枚	20 円	35 円
電子式複写方式による複写料金	B4版 以下 1枚	20 円	35 円

◆ 図書館委員会委員及び教養分館委員名簿

○ 図書館委員会委員

平成2年6月8日現在

部 局	官 職	氏 名	任 期	部 局	官 職	氏 名	任 期
文 学 部 教育学部 法学部 経済学部 理学部 医学部 医・病院 歯学部 薬学部 工学部	館 長	近 藤 潤 一	平成3.3.31	農 学 部	教 授	佐久間 敏 雄	平成3.3.31
	分 館 長	東 出 功	平成3.3.31	獣医学部	〃	斎 藤 昌 之	平成3.7.31
	事務局長	大 谷 巖		水産学部	〃	高 間 浩 蔵	平成4.4.30
	学生部長	石 川 武	平成3.3.31	教 養 部	〃	金 沢 甫	平成3.3.31
	教 授	青 柳 謙 二	平成4.3.31	〃	助 教 授	高 橋 世 織	平成4.3.31
	助 教 授	逸 見 勝 亮	平成4.3.31	言語文化	教 授	福 浦 徳 孝	平成4.3.31
	教 授	古 城 誠	平成4.3.31	環境科学	〃	山 村 悦 夫	平成3.5.27
	〃	石 坂 昭 雄	平成3.3.31	低 温 研	助 教 授	芦 田 正 明	平成3.3.31
	〃	由 井 俊 三	平成3.3.31	応 用 研	〃	日 合 文 雄	平成2.10.31
	〃	大 里 外 馨 郎	平成4.3.31	免 疫 研	教 授	菊 池 九 二 三	平成4.3.31
	〃	山 下 格	平成2.9.15	触 媒 セ	〃	林 民 生	平成4.3.31
	〃	太 田 守	平成3.3.31	スラブ研	〃	木 村 汎	平成3.3.31
	助 教 授	濱 田 辰 夫	平成4.3.31	医療短大	〃	和 氣 和 民	平成3.3.31
	教 授	深 井 一 郎	平成4.5.31				

○ 教養分館委員

部 局	官 職	氏 名	任 期	部 局	官 職	氏 名	任 期
文 学 部	分 館 長	東 出 功	平成3.3.31	理 学 部	講 師	石 川 剛 郎	平成3.3.31
〃	助 教 授	高 橋 世 織	平成4.3.31	〃	教 授	金 沢 甫	平成3.3.31
法 学 部	〃	川 人 貞 史	平成4.3.31	言 語 文 化 部	〃	竹 本 幸 博	平成4.3.31
教育学部	教 授	中 川 功 哉	平成3.3.31				

◆ 受 贈 図 書

本学教職員の方々から附属図書館と教養分館にご寄贈いただいた著作図書です。ありがとうございます。
た。本分館蔵書として永く保存し利用に供させていただきます。今後ともよろしくお願いします。

[本 館]

○名誉教授

- 今 村 成 和 行政法入門 第4版 有斐閣 1990
澤 口 悦 郎 驚異のチタバリ―世紀の新材料・新技術― 村田昭編 丸善 1990
和 田 謹 吾 北海道文芸時評(観白亭叢刊, 6) 1990

○文 学 部

- 土 屋 博 牧会書簡 日本基督教団出版局 1990
土 屋 博(訳) 初期キリスト教の社会学 H. C. キー著 ヨルダン社 1938
河 内 祥 輔 頼朝の時代―1180年代内乱史― 平凡社 1990

○法 学 部

- 木 佐 茂 男 人間の尊厳と司法権 日本評論社 1990
松 澤 弘 陽 日本政治思想(放送大学教材) 放送大学教育振興会 1989

○言語文化部

中 村 健之介 ドストエフスキー人物事典 朝日新聞社 1990

○附属図書館職員

藤島 隆・菅原英一(編著) 北のアンティークアリアン—札幌古書店の足跡— 北の文庫 1988

〔分 館〕

○文 学 部

河 内 祥 輔 頼朝の時代—1180 年代内乱史— 平凡社 1990

○理 学 部

橋 本 智 雄 基礎課程統計学 共立出版 1990

◆ 人 事 往 来

○退 職 (2. 3. 31)

斎 藤 現太郎 (事務部長)

樋 原 光 豊 (情報サービス課相互利用掛)

○転 出 (2. 4. 1)

益 田 義 孝 国文学研究資料館管理部付 (情報システム課長)

高 橋 克 郎 旭川医科大学教務部学生課教務係主任 (情報管理課庶務掛)

○採 用 (2. 4. 1)

佐 藤 依理子 情報管理課図書受入掛

石 丸 恵 情報サービス課教養分館情報サービス掛

○配 置 換 (2. 4. 1)

小 島 孝 経理部経理課支出掛長 (情報管理課会計掛長)

黒 田 泰 行 情報管理課図書受入掛長 (経済学部図書掛長)

堅 田 政 孝 “ 教養分館情報管理掛長 (同・情報サービス掛長)

矢 野 誠 情報サービス課資料サービス掛長 (農学部図書閲覧掛長)

荒 木 修 “ 相互利用掛長 (同・資料サービス掛長)

新 岡 弘 “ 教養分館情報サービス掛長 (歯学部総務課図書掛長)

伊 藤 秀 治 教育学部図書掛長 (獣医学部図書掛長)

坪 田 充 弘 経済学部 “ (情報管理課図書受入掛長)

山 本 幾 夫 歯学部総務課図書掛長 (教育学部図書掛長)

岡 本 憲 吉 農学部図書閲覧掛長 (情報サービス課相互利用掛長)

清 水 明 獣医学部図書掛長 (情報管理課教養分館情報管理掛長)

浅 野 賢 二 情報管理課庶務掛 (工学部総務課人事掛)

宮 丸 弘 子 “ 図書受入掛 (経済学部図書掛)

新 関 教 子 “ “ (“)

岩 本 攻 “ “ (“)

岡 内 鋭 理学部人事掛 (情報サービス課資料サービス掛)

石 井 進 医学部附属病院医事課外来掛 (情報管理課図書受入掛)

○転 入 (2. 4. 1)

宮 島 太 郎 事務部長 (静岡大学附属図書館事務部長)

三 上 洋 由 情報システム課長 (岩手大学庶務部庶務課長)

高 沢 勝 情報管理課会計掛長 (旭川医科大学総務部会計課用度第二掛長)

松 本 礼 一 情報サービス課資料サービス掛 (函館工業高等専門学校庶務課図書係)

貸出回数頻度順リスト (本館開架閲覧室：平成元年度)

本館開架閲覧室には学生用学習図書を中心に約 57000 冊の図書が配架されている。約 40% にあたる約 23000 冊が年 1 回以上の貸出があった。これらを貸出された回数順に 50 位までリストアップしてみた。

(冊数：備え付け冊数 例：上下巻→2 冊)

順 位	書 名	著 者・編 者 等	出 版 社	回 数	冊 数
1	有機化学 上・下	モリソン&ボイド	東京化学同人	139	16
2	固体物理学入門 上・下	キッテル	丸善	77	4
3	銀河英雄伝説 10 巻	田中芳樹	徳間書店	27	10
4	生化学 上・下	ストレイヤー	東京化学同人	69	9
5	無機化学 上・下	F.A.コットン[他]	培風館	47	6
6	物理化学 上・下	W.J.ムーア	東京化学同人	46	4
7	遺伝子 上・下	B.レーウィン	東京化学同人	44	5
8	量子力学 2 巻	小出昭一郎	裳華房	41	4
9	ダンス・ダンス・ダンス 上・下	村上春樹	講談社	41	2
10	量子力学 3 巻	メンア	東京図書	40	5
11	遺伝子の分子生物学	J.D.ワトソン	トッパン	38	3
12	有機化学 上・下	J.D.ロバーツ	東京化学同人	37	5
13	ノルウェイの森 上・下	村上春樹	講談社	37	2
14	詳解力学演習	後藤憲一	共立出版	33	4
15	現代ミクロ経済学 2 巻	J.R.クワーク	マグロー・ヒル出版	33	4
16	生化学 上・下	コーン&スタンプ	東京化学同人	29	3
17	細胞の分子生物学 上・下	B.アルバート	教育社	27	4
18	小生理解 上・下	広重力, 加藤正道	南山堂	27	3
19	クラム有機化学・問題の解き方 2 巻	S.H.ペイン	広川書店	26	2
20	刑法概説 2 巻	大塚 仁	有斐閣	26	4
21	ミクロ経済学入門	西村和雄	岩波書店	25	3
22	固体電子論概論	マーミン	吉岡書店	25	2
23	注釈日本国憲法 上・下	樋口陽一他	青林書院新社	24	2
24	うたかたのサンクチャアリ 2 巻	吉本ばなな	福武書店	24	1
25	力権総論 2 巻	J.B.マリオン	紀伊国屋書店	22	2
26	基礎無機化学 上・下	F.A.コットン[他]	培風館	22	2
27	入門価格理論	倉沢資成	日本評論社	22	2
28	物性理論	黒沢達美	裳華房	21	2
29	レッズ刑事訴訟法 上中下	渥美, 東洋	中央大出版部	21	3
30	古典力学 上・下	ゴールドスタイン	吉岡書店	21	2
31	定量分析般論重量分析法	高木誠司	共立出版	20	3
32	1Hおよび13C NMR 概説	R.アブラハム[他]	化学同人	19	2
33	力権総論 2 巻	ランダウ&リフシッツ	東京図書	19	1
34	債権総論 2 巻	W.R.デリック	有斐閣	18	2
35	複素関数論とその応用	久保亮吾編	講談社	18	2
36	大学演習熱学・統計力学 2 巻	ヘンドリックソン	裳華房	18	2
37	有機化学 上・下	甲斐道太郎[他]編	広川書店	18	3
38	債権総論 上中下	芦部信喜編	第一法規出版	18	1
39	憲法の基本問題	ライフ	有斐閣	18	1
40	統計熱物理学の基礎 上中下	ライフ	吉岡書店	17	3
41	磁性	金森順次郎	培風館	17	2
42	エレクトロニクスの基礎 上・下	霜田光一	裳華房	17	2
43	物理化学 上・下	G.M.パロー	東京化学同人	17	2
44	薬理化学 3 巻	伊藤 宏	栄光堂	17	2
45	演習応用解析 3 巻	洲之内治男[他]	サイエンス社	17	1
46	体と Galois 理論 3 巻	藤崎源二郎	岩波書店	17	2
47	統治の機構 上・下	清宮四郎	有斐閣	17	2
48	初等量子力学 上・下	原島 鮮	裳華房	16	1
49	量子論 上・下	小出昭一郎	裳華房	16	2
50	基礎物理化学 上・下	ムーア	東京化学同人	16	2

北海道大学附属図書館報「楡蔭」(ゆいん) 通号 80 号

平成 2 年 (1990 年) 7 月 10 日 発行 発行人 附属図書館事務部長 宮 島 太 郎

編集委員 宇野弘純(長)・岡田 敏・山口國雄・和田章憲・菅原英一・片山敏治・

佐藤依理子・岩本 攻・関根正宏・坪田千江子・小山千恵子

発行所 北海道大学附属図書館 札幌市北区北 8 条西 5 丁目 716-2111 (2967)

印刷所 文 栄 堂 印 刷 所 札幌市中央区北 3 条東 7 丁目 231-5560・5561